



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 100

Feb. 2026

目 次

○諸報告

- 2025 年度野外研修会の報告および 2026 年度のお知らせ・・・2
- 2025 年度日本植物分類学会講演会の報告・・・2
- 日本植物分類学会講演会に参加して・・・3
- 2026 年度第 25 回日本植物分類学会賞
(学会賞・奨励賞) 受賞者の決定・・・4
- 2026 年度第 20 回日本植物分類学会論文賞の決定・・・5
- 2025 年度第 3 回メール評議員会 議事抄録・・・5

○お知らせ

- 東アジア国際植物分類学シンポジウムの開催について・・・7
- 2026 年度総会のお知らせと審議事項・・・7
- 2025 年度事業報告(案)・・・7
- 2026 年度事業計画(案)・・・10
- 日本植物分類学会第 25 回熊本大会実行委員会からのお知らせ・・・14
- 名誉会員候補の情報募集・・・15

○ 会員消息・・・15

諸報告

2025 年度日本植物分類学会野外研修会の報告および 2026 年度のお知らせ

野外研修会担当 根本秀一

2025 年度の野外研修会は、鳥取県立博物館の清末幸久さん、宮澤研人さん、清水道代さんにお世話いただき、11 月 8 日に鳥取県岩美町の浦富海岸と唐川湿原の観察、翌 9 日に鳥取県立博物館の見学を行いました。

浦富海岸は鳥取県の日本海沿岸北部に位置するリアス式海岸で、花崗岩が侵食された海食崖や小島、砂浜からなり、国指定名勝及び天然記念物、山陰海岸国立公園、山陰海岸ジオパークに指定されています。城原海岸県営駐車場に集合し、行きは城原海岸から鴨ヶ磯まで遊歩道を歩き、県道で駐車場へ戻るコースを観察しました。

駐車場から遊歩道入り口までの県道沿いでは、ゴンズイ、トベラ、サルトリイバラの果実、ツワブキ、ケシロヨメナ、当地では珍しいフクシマシャジンの花が見られ、カニクサ、ウラジロ、ホラシノブ、ヘニシダなどシダ植物も豊富でした。遊歩道に入り樹林を抜けると、岩場の階段を砂浜まで降りていきます。崖の上はツワブキとワカサハマギクが見ごろになっていました。花崗岩の隙間には、立派なオニヤブソテツに混じり、ヒメオニヤブソテツが見られ、葉形やソラスを比較することができました。砂浜では、花は終わっていましたが、ナミキソウ、ハマゼリ、ハマボウス、ハマゴウ、ハマヒルガオなどの海岸植物が豊富で、熟したエビソウとハダカホオズキが彩を添えていました。崖上にはこちらも時期は過ぎていましたが、ヒゴタイ、コオニユリ、キキョウの姿も確認できました。日差しに透けるヤブニッケイやカクレミノの葉脈を見上げつつ県道沿いの鴨ヶ磯展望所まで登り返すと、ケナシカシダザサの群落と、海岸では珍しいナナカマドを見せていただきました。日向でお弁当タイムをとり、県道沿いのキクバヤマボクチの花やムベ、シロダモ、カエデコロの果実を観察しながら駐車場に戻りました。

2 か所目の観察地である唐川湿原は、カキツバタ群落として国の天然記念物に指定されているものの、ニホンジカの食害などで減少しており、柵を設けるなどの環境改善が図られています。湿原内ではイヌノヒゲ、アブラガヤ、アケボノソウ、シロネ、ミズチドリ、サワギキョウなどの湿生植物が確認できました。周囲の林縁ではコバノガマズミ、ミヤコイバラ、センボンヤリ、ヤネフキザサ、コバノイシガマ、オニヒカゲワラビ、クロノキシノブ、ハミズグケなどを見ることができました。

鳥取県立博物館では、まずバックヤードの収蔵庫とハーバリウムを見学させていただきました。巨大なトンビマイタケの標本がとくに印象的でした。その後常設展に場所を移し、解説、自由見学の後、散会となりました。NHK「らんまん」でもおなじみ、西尾製作所さんの植物模型も数多く展示されており、前日に花が終わっていた、ヒゴタイの美しい姿もありました。

博物館のお三方をはじめ、地元鳥取県からも大勢の方にご参加いただき、多くの学びを得ることができました。心より御礼申し上げます。

2026 年度の野外研修会は、6 月中旬に青森県下北半島の観察と、青森市森林博物館での標本庫見学を計画しております。海岸でセンダイハギ、コハマナス、エゾツルキンバイ、ウミドリ、ヤラメスゲ、オオクグ、ヒメウシオスゲなど、林内でオオウメガサソウ、ヘニバナイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウなどを観察する予定です。詳細が決まりましたら、ニュースレター等でお知らせいたしますので、どうぞ楽しみにお待ちください。



浦富海岸



唐川湿原

2025 年度日本植物分類学会講演会の報告

2025 年度講演会担当委員 横川 昌史

25 回目の日本植物分類学会講演会を、2025 年 12 月 13 日（土）に大阪学院大学での現地開催と Zoom を用いたオンライン開催のハイブリッド形式で実施しました。講演会の情報は、学会メーリングリスト、ホームページ、ニュースレターおよび各種メーリングリストによって行われ、合計 172 名の事前申込がありました。当日は会場参加者が 48 名、Zoom での参加が 106 名と、多くの方々にご参加いただきました。開催当日は大阪学院大学の職員の方および IT 技術者の方に全面的な協力を頂き、大きなトラブルも無く実施できました。また、懇親会には 24 名の方にご参加いただき、

素晴らしい交流の機会となりました。

今回は6名の先生方に下記の順でご講演いただきました。

若林 智美 (奈良先端科学技術大学院大学) 「雑草だけ面白い！日本のミヤコグサの多様性と適応進化の仕組みに迫る」

吉川 徹朗 (大阪公立大学) 「多様で柔軟な植物の種子散布のあり方」

西畑 和輝 (兵庫県立大 / 兵庫県博) 「日本のカタシロゴケ科一派手ゆえに見遇ごされた藓類たち」

厚井 聡 (大阪公立大学附属植物園) 「カワゴケソウ科植物の生態と進化」

西野 貴子 (大阪公立大学) 「昨日の敵は今日の友ーサワシロゴケの内生菌と蛇紋岩適応ー」

川窪 伸光 (岐阜大学・応用生物科学部) 「花は、なぜ美しいのか？送粉者でない私が花に惹かれる理由を考える」

ご多忙中にも関わらず、快く講演を引き受けてくださった演者の皆様、長時間お付き合いくださった参加者の皆様、質問やコメントで講演会を盛り上げてくださった方々、会場の手配をしてくださった大阪学院大学の林一彦先生に厚く御礼申し上げます。

講演会に参加した2名の大学院生から感想をいただきましたので、紹介します。

日本植物分類学会講演会に参加して

小林 智 (京都大学大学院理学研究科)

若林先生には、宮古島から利尻島まで日本列島に広く分布するミヤコグサの適応進化の仕組みについてお話をいただきました。ミヤコグサの多様性を細解くことで、それらが日本各地の様々な環境にどのようにして適応してきたのかを解き明かすプロセスはとてむくむくするものでした。日本各地へ分布拡大した歴史を集団遺伝構造の解析から推定するという大きなスケールから、全ゲノム関連解析やゲノム編集によって開花時期の多型の観点から環境適応の仕組みを解き明かす遺伝子レベルの研究までという幅広さが印象に残りました。

吉川先生には、植物がどのようにして動くのか、動物による種子散布に着目したお話をいただきました。中でもシキミの種子がヤマガラによって貯食散布されたり、ネズミによって持ち去られたりするというお話は驚きでした。植物の形態を見るだけでなく、より広い視野から観察することの大切さを感じました。そして、動物が食べた種子が排出されるまでの時間と移動距離から、種子が移動できる距離をモデリングするという研究が、植物がこれからの気候変動についていけるのか？という大きな問いにまで発展することに感銘を受けました。

西畑先生には、日本でこれまで知られていなかった藓類のカタシロゴケ科の発見についてのお話をいただきました。葉の先にたくさん無性芽をつけることが特徴のとても美しいコケで、ぜひ深探してみたいと思いました。また、地面に生育するのではなく樹幹や岩に着生するという生態にも興味がありました。顕微鏡で見なければならぬ細かな形質をとて丁寧に観察した結果を見せていただきました。それぞれ発見したコケがどの種にあたるのか明らかにして、多様性を明らかにしていく地道な過程の魅力が伝わってきました。

植物を研究するにあたって多様なアプローチの仕方があることを改めて実感する機会となりました。ご講演されたみなさま、企画してくださったみなさまに感謝申し上げます。

塚本 佳生 (京都大学大学院理学研究科)

本公開講演会に現地参加の機会を賜り、講演に加えて質疑応答や懇親会も通して、幅広い分野にわたるお話を伺い、極めて有意義な時間を過ごすことができました。

厚井先生には、カワゴケソウ科の生態に関してご講演いただき、急流型溪流沿い環境への適応進化について学ぶことができました。コケ植物との比較や、茎や根が特異的に変形した種の写真が示されたことで、水平的なボディプランとその多様性を直感的に理解でき、強い興味を惹かれました。同所的に分布する2種間の比較実験により、浅水域への垂直分布拡大と小規模な河川への水平分布拡大が連鎖して起きた過程が示され、興味深く拝聴しました。多様化に寄与した形質が複数想定されるとのことで、今後の研究の進展にも大きな期待を抱きました。

西野先生には、サワシロゴケの蛇紋岩適応において、特異的な共生微生物が植物にストレス耐性を付与する現象をご紹介いただきました。蛇紋岩型集団間での傷病率の差を起点に、土壌条件を操作する実験によって阻害要因を検証していく過程に、生態学研究の精緻さを実感しました。特に、カビの発生を単なる実験の失敗とせず、発芽への微生物の影響という新たな研究の端緒として発展させた点に深い感銘を受けました。さらに、他集団へ侵入可能な集団の種子から単離されたニッケルをキレートする内生菌が、植物病原菌と同属であることに、生物間相互作用の奥深さを感じました。

川窪先生には「花はなぜ美しいのか」という根源的な問いに迫るご講演をいただきました。冒頭から、経時変化の映像とともに語られる植物の「美しさ」に深く共感し、訪花昆虫へのシグナルであるはずの花が人間に対しても安らぎや癒しを与えることを実感できました。人類の歴史においても、狩猟採集生活の中で、安定した環境の指標となる花に惹かれることが移住の成功に繋がり、適応的であったとする議論は説得力があり、「惹かれるから美しい」という結論が強く印象に残りました。

貴重なご講演をご提供くださいました先生方、ならびに開催にあたり多大なご尽力を賜りました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



講演会の様子



懇親会の様子

2026年度第25回日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長 梶田 忠

推薦人からお寄せいただいた候補者の研究概要や業績リスト等の資料をもとに、選考委員会にて選考を行いました。その結果、学会賞受賞者2名、奨励賞受賞者2名が選ばれました。受賞者のお名前と選考の理由を以下に報告します(敬称略。各賞それぞれ五十音順)。

学会賞： 瀬井 純雄「阿蘇の草原植物フロア研究と希少植物保全への実践的活動」

小・中学校教員というお立場にありながら、長年にわたり、熊本県阿蘇地域を中心とした草原植物および絶滅危惧種の調査研究に精力的に取り組まれてきました。特にハナシノブをはじめとする希少植物については、地道で継続的なフィールドワークによって詳細な知見を蓄積し、学術論文や専門誌への発表や標本提供を通じて、植物分類学の発展に大きく貢献されました。また、熊本県レッドデータブックの編纂への参画、希少野生動植物保護条例制定に繋がる社会的発信、NPO法人を通じた地域住民との協働による保全活動など、研究成果を社会に還元してこられました。これらの、非職業研究者としての卓越した活動が、植物分類学と日本植物分類学会の発展への特に顕著な貢献であると高く評価されました。

学会賞： 遊川 知久「ラン科植物の自然史研究と生物多様性保全への貢献」

国立科学博物館において長年にわたりラン科植物を中心とした自然史研究を牽引し、我が国のラン科植物研究の第一人者として顕著な業績を挙げられました。分類・系統にとどまらず、菌類との共生関係の解明など生態学的側面を含む多角的な研究を展開し、ラン科植物の多様性の実体解明と分類基盤の確立に大きく貢献されました。また、得られた研究成果を植物園を通じた普及・啓発活動により社会に還元すると共に、絶滅危惧種の保全活動にも尽力されています。さらに、日本植物分類学会においては庶務幹事を務められるなど、学会運営にも大きく貢献されてきました。これら研究・保全・学会活動における卓越した功績が、植物分類学と日本植物分類学会の発展への特に顕著な貢献であると高く評価されました。

奨励賞： 倉田 正観「フウロソウ属植物の系統地理・保全遺伝・系統分類学的研究」

大学院在籍時より一貫してフウロソウ属植物を対象とした系統地理・保全遺伝・系統分類学的研究に取り組み、ゲノム解析手法を積極的に導入することで、高精度な分布変遷史の解明を進めてこられました。アサマフウロ変種群における氷期以降の集団分化過程や、エゾフウロ変種群における長期逃避地への複数回移入、さらにチシマフウロの東アジア起源説の提示など、いずれも国際的に高く評価される研究成果を発表されました。また、未解決であった種内分類群の整理や希少集団の保管理への示唆を与えるなど、基礎分類学から保全にまで及ぶ研究を展開されており、これらの優れた研究業績が、植物分類研究や生物多様性研究を牽引するものとして高く評価されました。

奨励賞： 設楽 拓人「気候変動に伴う日本の植物種の分布変遷・植生動態の解明」

植物分類学と植生学を基盤として、過去の気候変動が日本の植物分布や植生の種組成にどのような影響を与えてきたかを多角的に解明してこられました。特に種分布モデルを用いた日本の森林植物の分布変遷の推定や、山岳域を対象とした森林植物群落の種組成変化の可視化など、独創的かつ理論的裏付けのある研究を展開されています。さらに、長期モニタリングを通じた生物多様性評価と保全等に関する応用的な研究にも取り組んでおられ、基礎から応用までを統合する研究姿勢と、質の高い研究業績の数々が、日本の植物分類学や自然史研究の将来的発展を大いに期待させるものとして高く評価されました。

2026 年度第 20 回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長 布施静香

2026 年度第 20 回日本植物分類学会論文賞は、2025 年に出版された英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』76 巻および和文誌『植物地理・分類研究』73 巻に掲載された論文のうち、編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文 5 編を論文賞選考委員会において審査し、次の 2 論文に決定しました。

Takahashi, K. T., S. Fuse, H. Noda, O. Yano, H. Ikeda, S. Yooprasert, M. Poopath, K. R. Rajbhandari, Y.-P. Yang & M. N. Tamura 2025. Biosystematic Studies of *Carex* (Cyperaceae) IV. Phylogenetic Analysis and Infrageneric Classification of the Basal Lineages of *C.* subg. *Carex*. *Acta Phytotax. Geobot.* 76(1): 21–49.

選考理由：本論文は、世界有数の巨大亜属であるスゲ亜属において、初期進化過程の解明と節分類の整理に挑んだものである。東アジア・東南アジアを中心とした綿密なサンプリングと、信頼性の高い系統樹の構築により、本亜属の多様化の鍵となる基部系統を明らかにした。さらに約 150 種の形態を網羅的に調べあげて亜属内の分類における有効性を検討し、これらに基づいて、新節を含む分類体系と検索表を提示した。アジア諸国との国際協力体制の下で進められた点や、丁寧に分類学的整理が行われた点も高く評価された。

Fujiwara, T., M. Maruoka, T. Oka, K. Yoneoka, E. Ogiso-Tanaka, A. Ebihara, N. Murakami & Y. Watano 2025. *Lepisorus tajimaensis* sp. nov. (Polypodiaceae), a New Allohexaploid Species in the *Lepisorus thunbergianus* Polyploid Species Complex. *Acta Phytotax. Geobot.* 76(3): 169–188.

選考理由：本論文は、日本産ノキシノブ属の種多様性について再検討を迫り、兵庫県但馬地方から新たな分類群を発見・記載したものである。倍数性、ゲノム構成、形態データを統合的に解析し、本種が 3 種の二倍体由来する異質 6 倍体であることを明確に示した。また、戻し交雑によって生じた不稔 5 倍体の存在を明らかにした。複数の起源シナリオを明示した上で論理的かつ丁寧に検討された点や、倍数性複合体における網状進化と種形成過程の理解を大きく前進させた点が高く評価された。

2025 年度第 3 回メール評議員会 議事抄録

庶務幹事 高野 温子

2025 年 12 月 22 日から 12 月 31 日にかけて、2025 年度第 3 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この会議は 2025 年度の事業報告案と会計決算案、2026 年度事業計画案および会計予算案を評議員の方に審議していただくものです。これに加えて、学会への条件付き寄付の申し出があったため寄付の受領について、また予算に関わる英文誌・和文誌の投稿規定改正の提案について審議を行いました。

開催日時：2025 年 12 月 22 日～ 12 月 31 日

開催方法：電子メール媒体を用いた会議

参加者：2025 – 2026 年度 評議員全員

議長選出：慣例に従い、永益英敏会長を議長とすることに反対はなかった。

1. 審議事項

第 1 号議案 2025 年度 事業報告案・決算案

第 2 号議案 2026 年度 事業計画案・予算案

第 3 号議案 寄付の申し出について

第 4 号議案 英文誌・和文誌の投稿規定改正について

第 1 号、第 2 号議案につきましては、2025 年度総会議案と重複するため、掲載を省略させていただきます。総会議案（7-13 ページ）をご参照ください。

第 3 号議案

今般、当学会へ寄付の申し出がありました。お申し出に際し、1. 寄贈者を匿名とすること、2. 寄付金は特別会計「絶滅危惧種調査」の収入とし、絶滅危惧種調査に関する事業に使用すること。の 2 点の条件が付されました。本学会として寄付を受けるかをご審議いただきました。

第 4 号議案 学会誌の投稿規定変更について（編集委員会からの提案）

近年学会誌出版の赤字が続いていることから、出版に係る支出を抑えて会員サービスの向上を図るため、編集委員会より以下の措置をとることについて提案がありました。

1. APG の超過ページ料の請求と会員優遇について
APG の投稿規定には、「Full original papers are limited to 20 printed pages in length including tables and figures. Short communications are limited to 4 printed pages. With the approval of the Editorial Board, additional pages may be published only at the author's expense (3,000 Yen per page).」と記されている。しかし、これまで著者に負担を求めたことはなかった。
 - 1 - (1). full original paper について
審査の過程で 21 ページ以上の紙面が必要だと判断された場合は、予め超過料金発生の可能性を伝えた上で、5,000 円/ページを請求する。ただし、連絡著者が会員の場合は請求しない。本件、投稿規定改定後の投稿から適用する。
 - 1 - (2). short communication について
審査の過程で 5 ページ以上の紙面が必要だと判断された場合は、予め超過料金発生の可能性を伝えた上で、会員・非会員にかかわらず 5,000 円/ページを請求する。本件、投稿規定改定後の投稿から適用する。
2. APG の別刷 50 部の無料サービスについて
本サービスを廃止することで、印刷費、製本費、送料の削減を図る。PDF の無料提供サービスは継続する。本件、投稿規定改定後の投稿から適用する。
3. 植物地理・分類研究の超過ページ料の請求について
植物地理・分類研究の投稿規定には「刷り上がり 16 ページ以内程度」「過大な超過分は著者に負担を求める場合がある」と記されている。しかし、これまで著者に負担を求めたことはなく、負担金額も決まっていなかった。そこで、和文誌の超過ページ料を決定して投稿規定に金額を明示し、会員・非会員にかかわらず、17 ページ目以降の料金を請求する。その請求金額は、3,500 円/ページ（カラーで 16 ページを超過した場合は 2,500 円/ページを加算して 6,000 円）とする。

2. 審議結果

第 1 号議案は、修正を経て承認多数で可決された。委任状はなかったが、白票扱いがあった。

【賛成 9 票、反対 0 票、白票 4 票】

第 2 号議案は、修正を経て承認多数で可決された。委任状はなかったが、白票扱いがあった。

【賛成 9 票、反対 0 票、白票 4 票】

第 3 号議案は、承認多数で可決された。委任状はなかったが、白票扱いがあった。

【賛成 9 票、反対 0 票、白票 4 票】

第 4 号議案は、承認多数で可決された。委任状はなかったが、白票扱いがあった。

【賛成 9 票、反対 0 票、白票 4 票】

3. 議事録署名人

議事録署名人として 副島 顕子 氏 と 池田 博 氏 が選出された。

お知らせ

東アジア国際植物分類学シンポジウムの開催について

国際シンポジウム準備委員長 池田 博

日中韓を中心とする東アジア国際植物分類学シンポジウムについて、前号のニュースレター（99号）で今年4月に中国・昆明で開催することをアナウンスしました。しかしながら、昨今の日中関係の政治的な悪化に伴い、現在の状況では中国国内での開催は困難な状況となっています。中国側主催者は開催に意欲を示しているものの、現時点で予定通り開催できるかどうか見通せず、3月の時点で改めて判断をする、ということになりました。新たな情報が入りましたら、ニュースレター、学会メーリングリスト、あるいは学会HPで連絡をいたします。参加を考えておられる方におかれましては、何度もお迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、現況をご理解の上、準備怠りなきようお願いいたします。

最後に、中国側主催者からのメッセージをつけておきます：“No matter how the international situation evolves, the friendship and collaboration among botanists from China, Japan, and South Korea will never be interrupted.”

ご意見・質問等ありましたら、池田までご連絡ください。

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学総合研究博物館

池田 博

Tel: 03-5841-2839

E-mail: h_ikeda(a)um.u-tokyo.ac.jp ※(a)を@（アットマーク）に変更してお送りください。

2026年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事 高野 温子

来たる3月7日（土）の総会にて、下記の議案が審議されます。今回の総会は、第25回大会会場の熊本大学での現地開催となります。ご参加が難しい場合には、電子メール、ファックス、もしくは郵送にて、次の庶務幹事宛てにご意見等を事前にお寄せください。

庶務幹事連絡先 高野 温子

jimu@e-jsps.com、Fax：079-559-2007（高野宛をご明記ください）

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館

第1号議案 2025年度事業報告案（7ページ参照）、2025年度決算案（9-10ページ参照）

第2号議案 2026年度事業計画案（11ページ参照）、2026年度予算案（12-13ページ参照）

第1号議案 2025年度事業報告（案）

(1) 集会等の開催

- ・学術集会、講演会、研修会

年次学術集会として、日本植物分類学会第24回大会（高知）を3月7日（金）～3月10日（月）に高知大学にて開催した。

2025年度講演会を12月13日（土）に大阪学院大学（会場）および同時オンライン配信によるハイブリッド方式で開催した。

2025年度野外研修会は、鳥取県立博物館職員の清末幸久・宮澤研人・清水道代諸氏にお世話いただき、11月8日（土）、11月9日（日）に鳥取県浦富海岸、唐川湿原、および鳥取県立博物館にて開催した。

- ・総会, 評議員会
年次総会を3月9日(日)に高知大学朝倉キャンパスにて開催した(ニュースレター97号にて報告)。
評議員会を1回、3月7日(金)に高知市文化プラザかるぼーとにて開催した(ニュースレター97号にて報告)。
メール評議員会を2回、2月と8月に開催した。
- (2) 出版物の刊行
 - ・学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第76巻1～3号(計3冊)を発行した。
和文誌『植物地理・分類研究(The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第73巻1～2号(計2冊)を発行した。
 - ・ニュースレター
『日本植物分類学会ニュースレター』を96～99号(計4号)を発行した。
- (3) 委員会活動
以下の委員会を組織し、目的に沿って活動を行なった。
 - ・絶滅危惧植物専門第一委員会*
 - ・絶滅危惧植物専門第二委員会*
 - ・植物データベース専門委員会
 - ・学会賞選考委員会
 - ・論文賞選考委員会
 - ・大会発表賞選考委員会
 - ・ABS問題対応委員会
 - ・国際命名規約邦訳委員会
 - ・国際シンポジウム準備委員会
東アジア国際植物分類学シンポジウムを中国雲南省・昆明で開催すべく準備を進めたが、諸般の事情により延期された(ニュースレター98号、99号で報告)。
 - ・標本問題対応委員会
今年度は、輸入禁止品に該当する植物の学名のシノニムの扱いについて、学術研究に支障がない運用の方向性について、農林水産省植物防疫所と協議を開始した。また、寄生・半寄生植物の果実付き標本についての取り扱いを協議した。そのほか、会員に対して海外に標本を郵送する際のinvoiceの記載方法について助言を行った。
 - ・研究・普及推進委員会

*今年度活動のなかった委員会
- (4) 表彰
 - ・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の受賞者を決定し(ニュースレター96号で報告)、授与を行った。
 - ・日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し(ニュースレター96号で報告)、授与を行った。
 - ・日本植物分類学会大会発表賞の受賞者を決定し(ニュースレター97号で報告)、授与を行った。
- (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力
 - ・国内学会連合等への参加・連携を行った: 日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合
 - ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC)と連携した。
- (6) その他
 - ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行った。
 - ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究(The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』の論文PDFをJ-STAGEで公開した。
 - ・第16回(2025年度)日本学術振興会育志賞への推薦を行った。

2025年度決算報告(案)は9-10ページ

2025年度 一般会計 決算(案) (単位:円)

| 収入の部 | 単価 | 数 | 予算 | 決算 | 予算との差異 | |
|------------|--------|-----|-----------|-----------|-----------|----|
| 会費 | | | | | | |
| 通常(一般) | 7,000 | 710 | 4,970,000 | 4,827,000 | △ 143,000 | 注1 |
| 通常(学生/海外) | 3,000 | 100 | 300,000 | 377,000 | 77,000 | |
| 団体会員 | 8,000 | 21 | 168,000 | 144,000 | △ 24,000 | |
| 自動振替手数料 | 132 | 134 | 17,688 | 17,292 | △ 396 | |
| APGカラーチャージ | 18,000 | 30 | 540,000 | 594,000 | 54,000 | |
| バックナンバー販売 | | | 65,000 | 61,750 | △ 3,250 | |
| 著作権使用料 | | | 110,000 | 98,516 | △ 11,484 | |
| 利息 | | | 50 | 6,633 | 6,583 | |
| 雑収入 | | | 0 | 77,000 | 77,000 | 注2 |
| 合計 | | | 6,170,738 | 6,203,191 | 32,453 | |

| 支出の部 | 単価 | 数 | 予算 | 決算 | 予算との差異 | |
|------------------------|---------|-----|-----------|-----------|-----------|----|
| 大会補助費 | | | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 講演会補助費 | | | 70,000 | 52,179 | △ 17,821 | |
| 出版物印刷費 | | | | | | |
| APG vol.76 (1,2,3) | 960,000 | 3 | 2,880,000 | 3,793,410 | 913,410 | 注3 |
| 植物地理・分類研究 vol.73 (1,2) | 720,000 | 2 | 1,440,000 | 1,689,600 | 249,600 | 注4 |
| ニュースレター No.96~99 | 55,000 | 4 | 220,000 | 189,200 | △ 30,800 | |
| 学会誌編集補助費 | | | 280,000 | 265,772 | △ 14,228 | |
| 英文校閲費 | | | 50,000 | 0 | △ 50,000 | 注5 |
| 出版物送料 | | | | | | |
| APG送料 | 110,000 | 3 | 330,000 | 498,888 | 168,888 | 注6 |
| 和文誌送料 | 110,000 | 2 | 220,000 | 115,236 | △ 104,764 | 注7 |
| NL送料 | 90,000 | 2 | 180,000 | 81,612 | △ 98,388 | 注8 |
| 会議費 | | | | | | |
| 学会賞表彰経費 | | | 97,000 | 41,877 | △ 55,123 | |
| 自然史学会連合分担金 | | | 20,000 | 20,000 | 0 | |
| 分類学会連合分担金 | | | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 事務局管理費 | | | | | | |
| 消耗品費 | | | 10,000 | 1,057 | △ 8,943 | |
| 交通費 | | | 0 | 0 | 0 | |
| 封筒等印刷費 | | | 470,000 | 305,888 | △ 164,112 | |
| 通信費(小包手数料を含む) | | | 50,000 | 26,229 | △ 23,771 | |
| 手数料・その他 | | | 10,000 | 3,960 | △ 6,040 | |
| 集金代行基本料金/資金振込手数料 | | | 5,762 | 5,170 | △ 592 | |
| 集金代行振替手数料 | 132 | 143 | 17,688 | 17,556 | △ 132 | |
| レンタルサーバー使用料 | | | 32,000 | 32,340 | 340 | |
| 国際シンポジウム積立金 | | | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 予備費 | | | 100,000 | 0 | △ 100,000 | |
| 合計 | | | 6,792,450 | 7,449,974 | 657,524 | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 単年度収支 | △ 621,712 | △ 1,246,783 | △ 625,071 |
| 前年度からの繰越金 | 7,221,683 | 7,221,683 | 0 |
| 次年度への繰越金 | 6,599,971 | 5,974,900 | △ 625,071 |

注1:未納分を多く含むため。

注2:植物地理・分類の超過ページ料。

注3:ページ数増加のため。

注4:ページ数増加のため。

注5:2026年度に支払いを持ち越しのため。

注6:NLと同時発送2件、単発発送1件。

注7:NLと同時発送1件、単発発送1件。

注8:単発発送1件。

2025年度 特別会計〔絶滅危惧種調査〕決算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|-----------------|----|----|--------|
| 前年度繰越金 | 0 | 0 | 0 |
| レッドリスト改訂のための原稿費 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 |

注1

| 支出の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|-------------------------|----|----|--------|
| レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費 | 0 | 0 | 0 |
| 次年度への繰越金 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 |

注2

注1:該当する収入がないため。

注2:該当する支出がないため。

2025年度 特別会計〔国際シンポジウム〕決算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|-------------|-----------|-----------|--------|
| 前年度繰越金 | 1,041,072 | 1,041,072 | 0 |
| 国際シンポジウム積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 合計 | 1,241,072 | 1,241,072 | 0 |

注1

| 支出の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 国際シンポジウム準備金 | 0 | 0 | 0 |
| 国際シンポジウム若手派遣 | 100,000 | 0 | △ 100,000 |
| 次年度への繰越金 | 1,141,072 | 1,241,072 | 100,000 |
| 合計 | 1,241,072 | 1,241,072 | 0 |

注2

注1:2029年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。

注2:中国開催が2026年に延期されたため。

2025年度 特別会計〔命名規約〕決算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|--------|---------|---------|--------|
| 前年度繰越金 | 617,609 | 617,609 | |
| 合計 | 617,609 | 617,609 | 0 |

| 支出の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|----------|---------|---------|--------|
| 次年度への繰越金 | 617,609 | 617,609 | 0 |
| 合計 | 617,609 | 617,609 | 0 |

注1

注1:該当する支出がないため。

2025年度 特別会計〔顕彰事業〕決算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|--------|---------|---------|--------|
| 前年度繰越金 | 293,524 | 293,524 | 0 |
| 合計 | 293,524 | 293,524 | 0 |

| 支出の部 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|----------|---------|---------|--------|
| 次年度への繰越金 | 293,524 | 293,524 | 0 |
| 合計 | 293,524 | 293,524 | 0 |

注1

注1:該当する支出がないため。

**第2号議案
2026年度事業計画（案）****(1) 集会等の開催**

- ・学術集会、講演会、研修会

年次学術集会（日本植物分類学会 第25回大会：3月5日～3月8日、熊本）を開催する。

2026 年度講演会を開催する。
2026 年度野外研修会を開催する。
国際シンポジウム（東アジア国際植物分類学シンポジウム：中国・昆明）を開催する。
・ 学術集会総会、評議員会
評議員会を開催する（3月5日）。
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する（3月7日）。

(2) 出版物の刊行

- ・ 学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第77巻1～3号（計3冊）を発行する。
和文誌『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第74巻1～2号（計2冊）を発行する。
- ・ ニュースレター
『日本植物分類学会ニュースレター』100～103号（計4冊）を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動する。

- ・ 絶滅危惧植物専門第一委員会
- ・ 絶滅危惧植物専門第二委員会
- ・ 植物データベース専門委員会
- ・ 学会賞選考委員会
- ・ 論文賞選考委員会
- ・ 大会発表賞選考委員会
- ・ ABS 問題対応委員会
- ・ 国際シンポジウム準備委員会
東アジア国際植物分類学シンポジウムの準備・開催を行う。
- ・ 標本問題対応委員会
次年度は、輸入禁止品に該当する植物の学名のシノニムの扱いについて、農林水産省植物防疫所と協議の上、学術研究に支障がない運用の一定の方向性について取り決めを行いたい。また、寄生・半寄生植物の果実付き標本については、腊葉標本は、枯死している前提での取り扱いの基準について農林水産省植物防疫所と引き続き協議を行う。そのほか、標本の問題に関する情報を必要に応じて会員へ発信する。
- ・ 研究・普及推進委員会
- ・ 国際命名規約邦訳委員会

(4) 表彰

- ・ 日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
- ・ The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携、協力を行う。

(6) 次期会長と次期評議員の選出

選挙管理委員長を指名し、2027 - 2028 年度の会長と評議員の選挙を行う。

(7) その他

- ・ 学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・ 当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開する。
- ・ 植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ、メールニュース等で提供する。
- ・ 学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。

2026年度 一般会計 予算(案) (単位:円)

| 収入の部 | 単価 | 数 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|------------|--------|-----|-----------|-----------|----|
| 会費 | | | | | |
| 通常(一般) | 7,000 | 690 | 4,830,000 | △ 140,000 | 注1 |
| 通常(学生/海外) | 3,000 | 100 | 300,000 | 0 | |
| 団体会員 | 8,000 | 21 | 168,000 | 0 | |
| 自動振替手数料 | 132 | 135 | 17,820 | 132 | |
| APGカラーチャージ | 18,000 | 30 | 540,000 | 0 | |
| バックナンバー販売 | | | 65,000 | 0 | |
| 著作権使用料 | | | 110,000 | 0 | |
| 利息 | | | 50 | 0 | |
| 雑収入 | | | 0 | 0 | |
| 合計 | | | 6,030,870 | △ 139,868 | |

支出の部

| | | | | | |
|-------------------------|---------|-----|-----------|-----------|----|
| 大会補助費 | | | 100,000 | 0 | |
| 講演会補助費 | | | 70,000 | 0 | |
| 出版物印刷費 | | | | 0 | |
| APG vol. 77(1, 2, 3) | 960,000 | 3 | 2,880,000 | 0 | |
| 植物地理・分類研究 vol. 74(1, 2) | 740,000 | 2 | 1,480,000 | 40,000 | 注2 |
| ニュースレター No. 100~103 | 55,000 | 4 | 220,000 | 0 | |
| 学会誌編集補助費 | | | 280,000 | 0 | |
| 英文校閲費 | | | 100,000 | 50,000 | 注3 |
| 出版物送料 | | | | | |
| APG送料 | 110,000 | 3 | 330,000 | 0 | |
| 和文誌送料 | 110,000 | 2 | 220,000 | 0 | |
| NL送料 | 90,000 | 2 | 180,000 | 0 | 注4 |
| 会議費 | | | 0 | 0 | |
| 学会賞表彰経費 | | | 97,000 | 0 | |
| 自然史学会連合負担金 | | | 20,000 | 0 | |
| 分類学会連合負担金 | | | 10,000 | 0 | |
| 事務局管理費 | | | | | |
| 消耗品費 | | | 10,000 | 0 | |
| 交通費 | | | 0 | 0 | |
| 封筒等印刷費 | | | 150,000 | △ 320,000 | 注5 |
| 通信費(小包手数料を含む) | | | 50,000 | 0 | |
| 手数料・その他 | | | 10,000 | 0 | |
| 集金代行基本料金/資金振込手数料 | | | 5,762 | 0 | |
| 集金代行振替手数料 | 132 | 135 | 17,820 | 132 | |
| レンタルサーバー使用料 | | | 37,000 | 5,000 | |
| 国際シンポジウム積立金 | | | 100,000 | △ 100,000 | 注6 |
| 予備費 | | | 100,000 | 0 | |
| 合計 | | | 6,467,582 | △ 324,868 | |

| | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 単年度収支 | △ 436,712 | 185,000 |
| 前年度からの繰越金 | 5,974,900 | △ 1,246,783 |
| 次年度への繰越金 | 5,538,188 | △ 1,061,783 |

注1:会員数変動のため。

注2:印刷費高騰のため。

注3:2025年度分を持ち越しのため。

注4:学会誌との同時発送を年2回行う。

注5:選挙関連用紙・返信用封筒印刷のため。

注6:2029年の開催に備えての積立金。特別会計へ移換。

2026年度 特別会計【絶滅危惧種調査】予算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|-------------------------|-----------|-----------|----|
| 前年度繰越金 | 0 | 0 | |
| レッドリスト改訂のための原稿費 | 0 | 0 | 注1 |
| 使途指定寄附 | 3,500,000 | 3,500,000 | 注2 |
| 合計 | 3,500,000 | 3,500,000 | |
| 支出の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
| レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費 | 0 | 0 | 注3 |
| 次年度への繰越金 | 3,500,000 | 3,500,000 | |
| 合計 | 3,500,000 | 3,500,000 | |

注1:該当する収入がないため。

注2:絶滅の危機に瀕する植物種の分類学的研究および調査・保全活動のための寄附金。

注3:該当する支出がないため。

2026年度 特別会計【国際シンポジウム】予算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|--------------|-----------|-----------|----|
| 前年度繰越金 | 1,241,072 | 200,000 | |
| 国際シンポジウム積立金 | 100,000 | △ 100,000 | 注1 |
| 合計 | 1,341,072 | 100,000 | |
| 支出の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
| 国際シンポジウム準備金 | 0 | 0 | |
| 国際シンポジウム若手派遣 | 100,000 | 0 | 注2 |
| 次年度への繰越金 | 1,241,072 | 100,000 | |
| 合計 | 1,341,072 | 100,000 | |

注1:2029年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。

注2:2025年度から延期された。中国で開催される予定。

2026年度 特別会計【命名規約】予算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|----------|---------|-----------|----|
| 前年度繰越金 | 617,609 | | |
| 合計 | 617,609 | 0 | |
| 支出の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
| 次年度への繰越金 | 617,609 | 0 | 注1 |
| 合計 | 617,609 | 0 | |

注1:該当する支出がないため。

2026年度 特別会計【顕彰事業】予算（案）（単位：円）

| 収入の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|----------|---------|-----------|----|
| 前年度繰越金 | 293,524 | 0 | |
| 合計 | 293,524 | 0 | |
| 支出の部 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
| 次年度への繰越金 | 293,524 | 0 | 注1 |
| 合計 | 293,524 | 0 | |

注1:該当する支出がないため。

日本植物分類学会第 25 回熊本大会実行委員会からのお知らせ

大会会長 副島 顕子、実行委員長 藤井 紀行

皆さまには、多数の参加申し込みをいただき、誠にありがとうございます。2026 年 1 月 31 日現在、大会参加のお申し込みは 240 名、懇親会は 174 名、発表件数は口頭発表 49 件、ポスター発表 95 件となっております。発表者の皆さまにおかれましては、プログラムおよび発表方法等を大会公式 HP にてご確認のうえ、円滑な大会運営にご協力くださいますようお願い申し上げます。以下、現時点で決定している企画についてお知らせいたします。

●ランチョンセミナー

「植物遺産をつなぐ：日本・韓国・台湾の標本コレクション」

本大会では、大会 3 日目の 3 月 7 日(土)のお昼休みに、下記のランチョンセミナーを開催いたします。本セミナーでは、日本におけるハーバリウム(植物標本庫)の形成史を紹介するとともに、日本の研究者が東アジア、特に韓国および台湾における植物相研究にどのような影響を及ぼしてきたのかを探ります。

【日時】2026 年 3 月 7 日(土) 12:00 ~ 13:00

【場所】熊本大学黒髪南キャンパス 工学部 2 号館 2 階 223 講義室

オーガナイザー：ジエゴ・タヴァレス・ヴァスケス (Diego Tavares Vasques, PhD)
(東京大学理学系研究科附属植物園 特任助教・TI 標本室キュレーター)

12:00 ~ 12:20 邑田 仁 (東京大学)

「日・台・韓のテンナンショウ属研究とハーバリウム」

12:20 ~ 12:40 Jer-Min Hu (胡 哲明) (National Taiwan University)

「1950 年代以前の台湾における初期の植物学者—国立台湾大学標本館 (TAI) に所蔵される、台北帝国大学時代の収集標本に基づいて」

12:40 ~ 13:00 Chan-Ho Park (Fisheries Science Institute)

「標本館ビッグデータ活用における AI エージェントの役割—伝統的研究方法論との代替と補完」

※本セミナーは大会参加登録者を対象とした企画です。昼食は各自ご持参ください。

●公開シンポジウム

「栽培植物の魅力を探る—ワサビ・イグサ・肥後六花など—」

【日時】2026 年 3 月 8 日(日) 13:15 ~ 16:00 (受付 12:45 ~)

【場所】熊本大学黒髪南キャンパス 工学部 2 号館 2 階 223 講義室

※会場へのアクセスは公共交通機関をご利用ください。

【内容】身近な栽培植物についての歴史・文化的背景や、生物学的な知見を最新情報とともに紹介してもらい、専門家の視点からその魅力について語ってもらいます。

司会：三島 美佐子 (九州大学)

13:15 ~ 13:35 松下 夏海 (熊本大学)

「果実ができるキンモクセイはどこからきたのか？」

13:35 ~ 14:10 仁田坂 英二 (九州大学)

「動く遺伝子が生み出したアサガオの多様な変異」

14:10 ~ 14:45 山根 京子 (岐阜大学)

「誰も知らない九州ワサビの謎に迫る」

14:45 ~ 15:20 木原 久美子 (熊本高等専門学校)

「薑とイグサの起源はどこ？」

15:20 ~ 15:55 田中 孝幸 (東海大学)

「世界に誇る肥後六花」

※本シンポジウムは、参加登録および参加料は不要で、一般の方もご参加いただけます。

名誉会員候補の情報募集

庶務幹事 高野温子

名誉会員については、会則第 5 条「本会（旧日本植物分類学会ならびに旧植物分類地理学会を含む）に 50 年以上在籍した通常会員、または植物分類学の発展に著しい功績のあった個人で、評議員会の議を経て会長が推薦するもの」と定められています。しかし、2019 年の推薦をもって会員の在籍期間を確認するための資料が途切れたため、2020 年の総会にて自薦、他薦は問わず、今後しばらくは情報を広く募集することに決まりました。

そこで推薦に向けて、会員の皆様からの情報を随時お待ちしております。不確かでも結構ですので、お心当たりがありましたら、庶務幹事までメール、ファックス、郵送にてぜひご連絡ください。

ただし、評議員会を経た後、総会での会長推薦をもって名誉会員が決定されるため、ご連絡のタイミングによっては決定までに時間を要することもあります。どうぞご了承ください。

庶務幹事連絡先：高野 温子 jimu@e-jsps.com

〒 669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 兵庫県立人と自然の博物館 Fax: 079-559-2007

会員消息

